

第1回 利子補給金活用検討分科会（物流拠点施設）

日 時 平成25年1月28日（月） 11:00～11:40
会 場 仙台市役所2階 第4委員会室

出席者	株式会社山形銀行仙台支店仙台営業第二部主任	工藤 勝巳
(50音順)	東北大学会計大学院教授	成田 由加里
	株式会社日本政策投資銀行東北支店東北復興支援室課長	蓮江 忠男
	仙台商工会議所専務理事	間庭 洋
	仙台市経済局産業政策部長	嶺岸 浩友
	東北学院大学教養学部教授	柳井 雅也
	仙台コカ・コーラボトリング株式会社執行役員管理部長	吉尾 陸男

事務局 復興事業局 梅内震災復興室長、利主幹
(仙台市) 経済局 天野地域産業支援課長、関主幹

議 事

- 1 開会
- 2 分科会長選出
- 3 議事
 - (1) 分科会の運営について
 - (2) 復興推進計画の認定申請について
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

配布資料

資料1	第1回利子補給金活用検討分科会（物流拠点施設）出席者名簿
資料2	利子補給金活用検討分科会設置要領
資料3	利子補給金活用検討分科会の運営について（案）
資料4	宮城野区扇町における物流拠点整備事業について
資料5	仙台市復興推進計画（案）

1 開会

○事務局（震災復興室長）

それでは定刻でございますので、ただいまから仙台市復興推進協議会利子補給金活用検討分科会を開催させていただきます。

私は仙台市復興事業局震災復興室の梅内と申します。よろしくお願い申し上げます。

分科会長が決定するまでの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

まず、本日の分科会の公開・非公開の取り扱いについてでございますが、後ほどご審議いただく予定でございますが、本市では原則公開という方針がございますので、正式に決定するまでの間、公開という形で進めたいと考えておりますので、ご了承よろしくようお願い申し上げます。

はじめに、資料を確認させていただきます。お座席に、座席表、本日の次第、資料一覧、資料番号を振りまいた資料1から5を置かせていただいております。不足等ございましたらお申し付けください。よろしいでしょうか。

続きまして、本日の出席者の皆さまをご紹介させていただきます。お座席の順にご紹介申し上げます。

窓側のお席の方から、東北大学会計大学院教授 成田由加里様でございます。

仙台商工会議所専務理事 間庭洋様でございます。

仙台市経済局産業政策部長をしております嶺岸浩友様でございます。

東北学院大学教養学部教授 柳井雅也様でございます。

仙台コカ・コーラボトリング株式会社 執行役員管理部長 吉尾睦男様でございます。

株式会社日本政策投資銀行東北支店東北復興支援室 課長 蓮江忠男様でございます。

株式会社山形銀行仙台支店仙台営業第二部主任 工藤勝巳様でございます。

本日の分科会につきましては、仙台市復興推進協議会規約第7条、および本日資料2として配布しております要領がございます。こちらの方をご覧いただければと思っておりますけれども、こちらの裏面に構成員を記載してございます。この要領に基づきまして、東北学院大学の柳井先生、東北大学会計大学院の成田先生、商工会議所の間庭専務理事、仙台市、その他に、今回の事業者であります仙台コカ・コーラボトリング株式会社様、そして融資予定行であります山形銀行様、日本政策投資銀行様を分科会の構成員として進めることになっております。よろしくお願い申し上げます。

次に、この要領に従いまして定数等の確認をご報告させていただきます。本日は全ての構成員の皆さまのご出席をいただいております。お忙しい中ありがとうございます。過半

数を超えるということですので、要領第6条第2項により定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

2 分科会長選出

○事務局（震災復興室長）

続きまして、分科会長の選出をお願いしたいと存じます。要領第5条第2項にありますとおり、分科会長は皆さまの互選により決めていただくこととなっております。分科会長の選出につきまして、委員の皆さまからご推薦のある方、ご発言をお願いしたいと思います。

間庭専務理事、お願いいたします。

○間庭委員

分科会の親であります仙台市復興推進協議会の会長を務めていただいております東北学院大学の柳井先生に、この分科会の会長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○事務局（震災復興室長）

ご異議ございませんでしょうか。

それでは、柳井先生に分科会長をお引き受けいただきたいと存じます。恐れ入りますが、前の方の分科会長席へご移動をお願いいたします。

それでは、柳井委員よりごあいさつを頂戴したいと思いますので、お願い申し上げます。

○柳井分科会長

どうも皆さんおはようございます。お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。この分科会は、ある意味で、地域の力を生み出す場でございます。私も非力ながらいろいろ勉強してまいりますと、やはり早急に、同時的に、そして複合的に、一気に地域というものを再生していかないと、結局悲しいことがずっと続くようなことになってしまうわけでございます。そういった意味でも、この会議は重要なものと認識しておりますので、是非とも委員の皆さま方にはご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

3 議事

(1) 分科会の運営について

○柳井分科会長

それでは、ただいまから本日の議事に入ります。

議事の運営をしていくための必要事項についてお諮りしたいと思います。まずは分科会の公開・非公開を決める必要がありますが、事務局の方から案が示されていますので、ご説明をお願いしたいと思います。

○事務局（震災復興室長）

資料3をご覧ください。運営について、ということでございます。項目の第1点、会議の公開についてでございますが、先ほど申し上げましたように、原則として公開というのが仙台市の方針でございます。ただし、個人情報として問題があるもの、あるいは個人・法人、仙台市におきまして、政策形成過程の情報であって、事務事業の将来的な執行に支障が生じる恐れがある場合、その他非公開とすることに相当の理由がある場合のみ、この分科会に諮らせていただいたうえで非公開とさせていただきたいと考えてございます。

また、分科会については議事録を作成し、これを後日ホームページ等で公開してまいります。議事録は事務局でございます震災復興室で作成のうえ、2(2)に記載した事項を記載し、分科会長である柳井委員、および分科会長が指名した構成員の方にご署名をいただきまして、それをもって公開をさせていただきたいと考えてございます。以上よろしくお願い申し上げます。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、事務局から説明がございましたように、仙台市においては公開が原則となっておりますので、事務局案のとおり原則として公開、そして、もし協議の過程で非公開とすべき事項が出てきましたら、その都度皆さまにお諮りして決めていきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。それでは、事務局案のとおりとさせていただきたいと思えます。

また、議事録につきましても事務局案のとおりでよろしいと思えますが、いかがでしょうか。

ありがとうございます。それでは本日の会議の議事録の署名ですが、私と、もう一人分科会の共通メンバーの中からお願いしたいと思います。名簿順ということで、お手元の名簿を見ただけですと、成田先生のお名前が出ておりますので、お願いしてもよろしいでしょうか。

○成田委員

はい。結構でございます。

○柳井分科会長

それでは成田先生、よろしく願いいたします。

その他分科会の運営につきまして、皆さまから何かございますか。

よろしいですね。

(2) 復興推進計画の認定申請について

○柳井分科会長

それでは、本日の本題になります復興推進計画の認定申請についての協議に移りたいと思います。まず、仙台市から、今回の利子補給金の国への申請につきまして、これまでの経過等についてご説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○仙台市（地域産業支援課長）

仙台市経済局地域産業支援課の天野と申します。それではご説明させていただきます。まず、この利子補給金の制度につきましては、昨年11月9日に事前協議の公募をする旨のアナウンスが国からありまして、それを受けまして、11月19日開催の仙台市復興推進協議会において今回の分科会を設置する旨の方針が出されました。

今回の案件について、これまでの経緯でございますが、12月7日に金融機関様などからご相談がありました。そのうえで、各委員の方々に12月11日から12日にかけて個別にご説明させていただきまして、それを受けまして12月14日、公募の締め切りでございますが、国の事前協議の公募への応募をしております。その後、1月15日に国から事前協議についての採択という通知が出されております。それを受けまして、復興推進計画の案を作成いたしまして、本日、利子補給金活用検討分科会にお諮りするという運びになっております。

今後につきましては、今回の会議でご協議いただきまして、協議の内容につきまして復興推進協議会、親会に報告をさせていただきます。その後、復興推進計画の認定申請を国へ行いまして、国から認定を受ける、というような運びになります。以上が手続き、プロセスについてのご説明でございます。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。

続けて、今回の利子補給金の対象事業の事業者であります仙台コカ・コーラさんより、事業内容の説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○吉尾委員

では、お手元の資料4に沿って、当社の宮城野区扇町における物流拠点整備事業について、ご説明申し上げます。まず、資料の1枚目のスライド2ページと2枚目のスライド3ページをご覧ください。当社の会社概要と当社およびグループ会社の事業概要でございます。当社は1962年に創業しまして、仙台市宮城野区扇町を拠点に、清涼飲料水の製造・販売を行ってまいりました。販売地域は、宮城県、福島県、山形県の3県になります。おかげさまで、昨年、創業50周年を迎えることができました。東日本大震災により本社社屋と併設倉庫が全壊しましたので、現在、本社所在地を扇町から青葉区一番町に移しております。当社傘下のグループ会社は4社でございます。それぞれ、製造、物流、自動販売機の設置・修理、自動販売機のおペレーション事業を行っております。当社を含めた5社でコカ・コーラ事業を展開しております。

スライドの4ページをご覧ください。日本のコカ・コーラシステムについて、簡単に記載しております。後でお読みいただければと思います。

スライドの5ページでございます。当社の蔵王工場の概要についてまとめております。当社の蔵王工場は最新鋭の製造設備を有しております、ここで製造する製品は、当社はもちろん他のボトラー社にも供給しております。年間3千万ケースを製造する能力があります。また、併設しております2棟の物流倉庫は、合わせて2万7千パレットの保管能力がございます。震災に備えて、あえて機械式の自動倉庫にはせず、平置き倉庫となっております。実際、東日本大震災においては、多少の荷崩れがありましたが、出荷業務はすぐに再開することができました。

スライドの6ページをご覧ください。少し前置きが長くなりましたが、本件の物流拠点整備事業をご説明させていただきます。東日本大震災以降、当社は物流拠点が散在しまして、非効率な物流体制を強いられておりましたが、地域の皆さまに安定的に、安心・安全な飲料水をお届けできるよう、物流拠点整備事業として、創業の地であります宮城野区扇町に仙台物流センターを新築することといたしました。工事費は約12億円。既に今年の12月に着工しております、本年の8月に竣工する予定であります。当物流センターの取扱数量は、年間で約400万ケース、500mlペットボトル換算では9,600万本にあたります。出荷額は約80億円となります。

スライドの7ページ、8ページでございます。当物流センターの予想外観図と設備の概要です。耐震建築はもちろんのこと、東日本大震災により全壊した旧本社・倉庫の教訓を生かし、大きく4つのバックアップの設備を附帯しております。一つは、当社の敷地内にグループ会社の震災時対応型のガソリンスタンドを併設いたします。停電時においても燃料補給が可能な環境を整え、災害時の飲料水の供給を確保いたします。二つ目は、自家発電装置と太陽光発電設備を設置いたします。倉庫内の照明やバッテリーフォークリフトの充電を可能とし、出荷機能を維持いたします。三つ目は、非常用水として常時16トンの雨水を貯蔵し、当物流センター従業員の3日分の生活水をまかなう予定です。最後に四つ目として、電気自動車対応の充電装置を設置いたします。

スライドの9ページ、10ページです。こちらでは、物流拠点再編成による効果につい

てまとめております。震災により離散しました4つの拠点を、再編成により仙台物流センター1拠点といたします。併せて仙台物流センターに4つの営業所を統合した仙台支店を設置し、物流子会社2社も再集結いたします。期待されます効果としては、ご覧のとおり主に6つ挙げることができます。物流機能の効率化はもちろんですが、特に、南北を軸とする国道4号線と東西を軸とする国道45号線の交わる扇町の好立地と、災害時に強い設備を生かした供給体制の強化が大きいものと考えております。

スライドの11ページに、当社のこれまでの地域貢献活動の取り組み事例を紹介させていただきます。後でお読みいただければ幸いです。

最後になりますが、当社の理念に「地域の発展なくして当社の成長はありえない」という基本理念がございます。さきの震災で旧本社は全壊となりまして、十分な供給体制を維持できなかったという大きな経験と教訓を踏まえまして、当社のこれから目指すものとして、地域の皆さまに迅速かつ安定的に飲料水を供給してまいることを考えております。また、災害時には、仙台市様と締結しております「災害時における救援物資等の提供に関する協定」に基づき、災害時における物資の提供や飲料水の優先的な供給をさらに進めていくためにも、本件扇町の物流拠点を整備してまいる所存でございます。

以上、駆け足でございましたが、宮城野区扇町における物流拠点整備事業について、ご説明させていただきました。ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。ご質問等は説明がひと通り終わりましたらお願いしたいと思っております。

引き続きまして、仙台市から、国へ申請します計画案について、ご説明をよろしくお願いいたします。

○仙台市（地域産業支援課長）

仙台市復興推進計画案、資料5をご覧になっていただきたいと思います。順にご説明させていただきます。

計画区域は仙台市としております。

計画の大目標でございますが、今般の震災によりサプライチェーンが寸断されまして、物資の供給が滞り、非常に被害を被ったというところがありますので、そこに対する手当てをいたしましょう、ということです。かいつまんで申しますと、平時において、都市全体としての物流の効率化、円滑化、適正化を図るとともに、災害時の支援を想定した企業などによる地域を越えた連携の取り組みを推進する、ということを考えております。

3の取り組みの内容でございますが、繰り返しになりますが、物流確保のための中核的な役割を担う企業の設備投資を支援し、その体制強化に向けた取り組みを促進するということで、本案件について中核的と認めまして以下の文章を作成しております。

4①の事業の内容としまして、さきほどご説明がありました、仙台コカ・コーラボトリ

ング株式会社様の新しい物流センターに対して資金貸付を行う事業でございます。

貸付の対象となる事業が中核事業であることの説明、ここが肝になりますが、このなかで既に仙台市が策定しております「仙台市震災復興計画」におきまして、企業の防災力を強化するということが掲げてございます。それから、これも震災後に策定しました「仙台市都市計画マスタープラン」におきましても、大震災への備えとして、防災機能を高めるため、都市全体の流通業務機能の強化を推進するとしております。また、さきほども一部説明がありましたが、既に仙台市と仙台コカ・コーラボトリング株式会社様とは、災害時の救援物資等に関する協定を平成19年に結んでおりまして、今般の震災におきましても、多大な飲料水の供給をいただいたところでございます。次のページにいきまして、今回の新しい物流センターにつきましては、さきほどご説明がありましたように、停電や災害時の給油などといったことについても非常に配慮されている建物であるということ、また、国道45号線と4号線に面した交通結節点にあるということで、今後起こりうる震災におきましても、円滑な物資の供給ということが期待できると考えております。2段落目のなお書き以降につきましては、中核事業の要件に合致するかということでございますが、飲食料品卸売業につきましては、本市の全卸売・小売業の年間販売額の20.2%を占める産業であるということ、それから、この施設から出荷される製品の年間出荷額が80億円と大きなものであること、また、施設の設備投資規模が12億円ということで、同業種の設備投資の平均約5億円と比較して大規模な事業となっているということでございます。こういったことから、本事業が中核事業であると認められると位置付けまして、この計画を作成しております。

次に③でございます。施行規則第2条に規定する該当事業ということで、第2条第7号と書いてございますが、これは貨物流通の効率化、円滑化および適正化に関する事業というものに該当すると位置付けております。

④につきましては、利子補給金の支給を受ける予定の金融機関名ということで、利子補給金は金融機関に交付されることとなりますので、日本政策投資銀行様、および山形銀行様としてございます。

それから、利子補給金につきましては、事業者3億円以上貸し付ける指定金融機関ということになっておりますので、これにも合致するものと考えております。

次に5ですけれども、地域の復興の円滑かつ迅速な推進と当該計画の区域の活力の再生に寄与するものである旨の説明ということでございますが、いままで説明してきたことの繰り返しになりますが、「仙台市震災復興計画」等におきまして本市が目指す復興の方向性に合致する取り組みであると考えております。

6のその他ということでございますが、本日ここで協議されたことを記載しておりまして、分科会におきまして法第4条第6項の規定に基づく協議を行ったということ、それから、正式にはこれから宮城県に法第4条第3項に基づく意見聴取を行うということで、これらが整いましたら、この計画を国へ申請するという運びになります。以上でございます。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。

ただいま仙台市、および仙台コカ・コーラさんからご説明がありました内容につきまして、これから皆さんと質疑応答をしていきたいと思えます。それでは、今日初めてということもありますので、成田先生から反時計周りにいきまして、吉尾さんに最後に質問等をまとめて、追加がありましたら思い残すことがないようにお話いただければと思えます。

それでは成田先生、急で申し訳ないのですが、よろしく願いいたします。

○成田委員

では、まず1点確認ですけれども、今回の利子補給を受けるにあたりまして、どういった形で社会に還元できるかということが大きなポイントかと存じます。今後の防災計画のなかで、御社が果たす役割について、さきほど事務局からご説明がありましたけれども、例えば何万人に対して飲料水の供給が可能であるといったような、もし具体的な数字がございましたら、ご教示いただければと思えます。

○柳井分科会長

では間庭さん、お願いいたします。

○間庭委員

私からは質問ではなく意見なのですが、さきほどご説明を伺いまして、本来持っていた機能を損なった訳ですので、これを回復するという含めながら、さらに防災、災害対応についてもしっかりと計画に織り込んでいるということと、東北の南3県を販売地域にされておられますので、太平洋側と日本海側のさまざまな対応につきましても考慮しながら、物流センターの仕様について考えておられるということについて、高く評価をしたいと思えます。

また、建設場所につきましても、以前は雨水の問題などがありましたが、それも相当改善されて、立地についても、海から一定の距離もありますので、災害に強い場所でもあると思えます。今回新しく建てるにあたってそういった配慮をされたと思えますので、是非そういった視点からも、地域貢献を担いながら企業活動の発展を期していただきたいということで、意見を申し上げたいと思えます。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。続きまして嶺岸さん、お願いいたします。

○嶺岸委員

まず、さきほど事務局からも説明がありましたが、今回の震災において、飲料水を含め多大な物資を無償で仙台市へご提供いただきまして、本当にありがとうございました。私

自身、本部で物資の調達を担当していたものですから、震災時に食料や飲料水を集めるのに非常に苦勞した記憶がございます。そういったなかで、仙台コカ・コーラさんから多大な飲料水を供給していただいたということは非常に記憶に残っております。本当にありがとうございます。

内容についてですが、さきほど間庭専務理事からもお話がありましたが、単なる復旧ではなく、広域のエリアを見据えて、他の地域とも連携し、なおかつ機能性も高めて、新たな災害が起きても十分対応できるような内容になっているということは、極めて意義深いと思っているところでございます。

質問なのですが、今回、このような計画を立てて実行していただくのは大変有意義ではあるのですけれども、会社全体としてのBCPといったものはどの程度までお考えなのか、今回直接は関係ありませんが、単なる復旧を超えて会社自体が事業継続できるような仕組みというものを作っているのかどうか、ということについて教えていただければと思います。以上でございます。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。それでは、融資する立場の工藤さん、よろしくお願いいたします。

○工藤委員

仙台コカ・コーラボトリング株式会社様における今回の事業につきましては、仙台商圏における物流・配送拠点として好立地に整備され、災害時における円滑な被災地への物資の供給というものが可能になるものであります。よって、その流通機能の強化や災害時における物流の確保の推進に必要な中核事業であると考えておりました、支援してまいりたいと考えております。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。続きまして蓮江さん、よろしくお願いいたします。

○蓮江委員

お話としましては、会社様、市の方からもご説明があったとおりの意義でとらえております。ひとつは、もちろん仙台コカ・コーラボトリング様が被災を受けて、拠点の再整備をするということでもありますけれども、その効果という意味では、飲食料品卸売業の物流全体に寄与するような再編成、それを担い得る会社様のご投資と考えております。それだけではなくて、さきほどのお話にも出ておりましたが、仙台市の復興計画のなかで防災先進都市ということが非常に大きなポイントだと思うのですが、これに関しましても、震災時もそうでしたし、今回整備する施設に関しましても非常に配慮がなされている、防災面でも意義の高い事業ではないかと考えておりますので、事業規模の中核性も含めまして、

いろいろとご支援してまいりたいと思っております。以上です。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。各委員からいろいろ出てまいりましたけれども、吉尾さんいかがでしょうか。質問もございましたが。

○吉尾委員

いろいろとありがとうございました。当社はコカ・コーラシステムということで、さきほどの資料にありましたように、東北の南3県をテリトリーとしているのですが、他にも全国にボトラーズさんが11社ございまして、お互いに商品を融通し合っております。したがって、当社の蔵王工場で作った商品は、南は沖縄、北は北海道まで流通させていただいております。今回、震災時に非常にありがたかったことは、他のボトラーズさんから当社へ供給していただきまして、これを当社が受けて供給させていただいたといったことがございました。逆に神戸の震災の際には、当社から非常に多くのものを供給したということを知っております。そういった譲り合いの精神がコカ・コーラシステム内にはございます。仮に、今回の仙台物流センターが何らかの場合に機能不全になっても、飲料水の供給は確実にできると確信しております。成田先生から具体的な数字というお話がありましたが、数字はいま持ち合わせていませんが、そういったことでございます。それから、全世界のコカ・コーラシステムからもいろいろな形での飲料水の供給がありますので、さきの震災時には、韓国からも、水の輸入をはじめとして皆さまに供給させていただいたということがございますので、しっかりやっていけると思っております。

それから、嶺岸部長様からご質問のBCPですが、当社は現在作成中ということで、ほとんどできているのですが、より慎重にやろうということでまだ完成はしておりません。アメリカのコカ・コーラ社にも諮っております、まだ了解を得ておりません。もう少しお待ちいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

今回の物流拠点の整備事業につきましては、当社の50周年、新たな創業ということで考えておまして、社運を賭けてやっている事業でございますので、皆さまからご支援をいただいて、しっかりやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。各委員の方のお話を伺っていると、国の復興構想会議の提言にありました、いわゆる新しい公共という、民間と行政が連携しながら公的な責任を果たしていくという理念と、もうひとつは、合わせ技という考え方があるのですが、こういった連携によって被災地の復興、あるいは復元力に貢献をしていくということ、間庭専務理事の方からお話がありましたけれども、他地域に対しても貢献ということで、言ってみればリダンダンシーがきちっとしているということで、そういった色々な合わせ技がこのなかに組み込まれていると理解いたしました。おそらく、これから地域が発展し

ていくためには、こういった取り組みが本当はもっともっと地域のなかに埋め込まれていって、実施に移されていくといった必要があると思います。そして、以前に新潟県で大地震があったとき、地元の製紙会社が最新鋭の設備を入れることによってV字回復を遂げていきました。コカ・コーラさんも、今回の集約化によって今まで以上に効率的で、そして地域にもより貢献していく体制が整うものと期待しております。

皆さまのご意見を伺っておりますと、特に反対という方はいらっしゃらなかったように思うのですが、皆さん賛成ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは、皆さまからいただいたご意見を踏まえまして、今回の復興推進計画の申請につきましては、本分科会としては了承ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは、仙台市の方で申請に向けて作業を進めていただきたいと思います。

(3) その他

○柳井分科会長

では次に、議題のその他に入りますが、皆さまの方から何かございますか。事務局の方から何かございますか。

○事務局（震災復興室長）

進行については特にございませんが、さきほど間庭専務理事からもお話がございましたけれども、扇町地区は従前から、8.5豪雨の影響を受けるなど、仙台市としても雨水への対策が課題であったところがございます。今回、東部地域一帯の地盤沈下を受け、国から復興交付金をいただいております。平成27年度までに排水機能の強化にも取り組んでまいります。復興のさまざまなメニューがございますけれども、復興交付金、復興特区、この利子補給というような大きなメニューがございますので、これを活用して、被災地の復興を推進していくわけがございますけれども、先週一部報道にもありましたが、やはり復興特区等の取り組みでも、仙台市の取り組みが少し早いということが全体的にあると思っております。利子補給につきましては、今回の公募で私どもともう1地区で申請があったと聞いておりますけれども、こういったことを積極的に被災地にも発信しながら、他地域の利子補給を含む、経済の活性化にも取り組んでいきたいと考えておまして、常々商工会議所様等と連携しながらさまざまな取り組みをさせていただいておりますけれども、こういったものが進んで初めて本当の復興になると考えてございますので、本件について本日ご了承いただきましたので、本申請におきまして国の方へもしっかり訴えて、本市の復興、地域の復興に活かしてまいりたいと考えてございます。どうもありがとうございます。

○間庭委員

仙台コカ・コーラさんの資料の11ページにありますとおり、今回は防災といったことがテーマになっておりますが、震災は頻繁に起きるわけではありませんので、普段のこういった地域貢献がたくさんされているということは、今日のテーマとは直接関係はありませんが、これも高く評価しておきたいと思います。ご承知のとおり、スポーツ、文化などさまざまな分野でご尽力されておりますので、災害が起きたときの話はさきほどあったとおりですけれども、普段の活動も評価しておきたいと思います。

○柳井分科会長

ありがとうございました。他にございますか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の議事は全て終了となりますが、事務局の方から何か連絡事項等ございますでしょうか。

○事務局（震災復興室長）

本日の協議結果につきましては、親会となります仙台市復興推進協議会の委員の皆さまにご報告をさせていただきまして、ご了解をいただいた後、速やかに、できれば今月中に国へ計画を申請してまいりたいと考えてございます。また、国から認定の通知がございました場合には、皆さまに速やかにご報告させていただきます。

共通メンバーの皆さまにおかれましては、次の公募で案件がございましたら、また改めて日程を設けまして、ご説明等させていただきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○柳井分科会長

どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の分科会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

以上、議事録の内容につきまして、すべて相違ありません。

平成25年 又月又日

議事録署名者

(分科会長) 柳井 雅也

(構成員) 成田 由加里